

○ 協働事業の概要

記入年月日 平成 27 年 3 月 31 日

事業名	小平市民の省エネ・創エネについての関心度アップを図る事業
団体名	NPO 法人こだいらソーラー
担当課名	環境部 環境保全課
事業期間	平成 26 年 4 月 14 日～平成 27 年 3 月 31 日

いきいき協働事業の自己評価について、ご記入ください。

① 地域の課題が解決されましたか。(計画時に設定した課題がどの程度解決されましたか。対象者がどう変わりましたか。)

省エネ・創エネ関心度アップ事業の参加者は、予想を上回る延べ人数で432人(内子供48人)となった。会場アンケートからもわかるように、中央公民館に来て催しを知り、来場したという人が多く、環境に関心のない市民や関心があっても情報に触れる機会のない市民へのアピールと啓発活動という目的はある程度達成できたと考える。ミニセミナー参加者も予想した各 10 人を全セミナークリアした。

ベランダ太陽光発電組立セミナーには、定員 5 名を上回る 14 名の申し込みがあり、関心の高さが伺えた。アンケートの中でも、自由記述の感想において、「今後の生活の中で、省エネについて取り組んでいきたい」という内容のものが多く見受けられた。

このことから、省エネに関心のない市民に対しても、今回のセミナーの教材やミニセミナー及び展示の機会が与えられれば、環境意識を高める一定の効果があると考えられる。

②自らの団体の長所が、発揮出来ましたか。(市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られましたか。市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開できましたか。)

市民啓発の講師や教材を我々独自のネットワークを駆使して集めることができた。情報発信においても、NPO の会員や関係者を通じて、発信することができた。これまでに培ってきた環境 NPO としての市民啓発のノウハウを生かし、市民に参加しやすく、分かり易い内容とすることができたと考える。

③協働の姿勢が図られましたか。(互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方など相互理解が図られたか。対等関係を維持するために適切な協議や意見交換の機会を設けましたか。相手方と十分な情報の共有が図られましたか。)

担当課からは、会場確保、広報の協力等、フェアの会場設営や、展示物協力等、事業を進めるにあたって多方面での協力があつた。省エネ・創エネフェア当日の会場を飾る垂れ幕や、展示のアドバイス等、非常に効果的なサポートがあつた。省エネ・創エネの普及啓発という同じ目的に向かって事業を行っている連帯感があつた。イベントの開催手順や内容、環境カレンダーのデザイン等は、意見交換の場をつくれず、情報の共有という点で反省が残った。

④改善提案がありますか。

打ち合わせの会は 1 回だけではなく、回数を増やしたり、またメール等での連絡を密にして、具体的な実施内容の共有を図りながら進めることで、より行政と市民団体の持ち味を発揮できると思う。その他の改善点としては、太陽光パネルの組み立て講座は、地下の工作室を利用したが、1 階の展示スペースの一部で参加者だけでなくも見られるような工夫ができればと思った。(本セミナーではかなりの見学者がいた) 環境カレンダーにおいて、日付欄を左側に配置したが、記入スペースが細くなり、結果として記入に難点が残ったかもしれない。